

		NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報	
		発行人/理事長 馬場 英男	
		(連絡先) 〒625-0062 京都府舞鶴市森 875-2	
		TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764	
		E-mail brick@iris.eonet.ne.jp	
特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴			
会報 109号 令和1年11月1日			
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ		http://www.redbrick.jp/	

目次

1 「建部山堡壘砲台跡見学会」報告	事務局	4 舞鶴市立赤れんが博物館～開館から25年～	石原 雅章
2 「明治人の用心深さ」	小野 章	5 その他 編集後記	事務局
3 舞鶴の戦争遺産2	永井 英司		

1. 「建部山堡壘砲台跡見学会」報告	事務局
--------------------	-----

令和1年10月27日(日)、「第7回市内赤煉瓦建造物見学会」を開催し、舞鶴市喜多地内建部山山頂の旧陸軍建造の堡壘砲台跡を見学した。参加者は法人理事3名を含む老若男女16名で、午前9時過ぎ登山開始、頂上に午前10時45分着、全員揃った所で吉岡博之法人理事による看板・資料をもとに解説後自由見学、11時40分頃下山開始、午後0時40分頃下山終了・解散の行程であった。下山後の大雨に会わず幸いであった。

本年3月30日に法人理事7名で実施した事前調査登山については、会報107号で報告した所であるが、山道には草の繁茂は少なく当初考えていた足元の草の絡みも無く登山することができた。数日前に下東区の皆さんが管理登山された際に笹の伐採をされたようで幸いであった。又、台風による倒木で道を塞ぐ箇所も無く、思いのほか順調であった。

道中での吉岡理事による側溝、アーチ橋など構造物や歴史の解説と、参加者の内、今号で寄稿されている森林インストラクターの永井さんによる樹木の詳しい解説があり、充実した見学会となった。今回の見学では理事が鋸・鎌を持参し、砲台跡の平地の木々の伐採を行ったが、時間不足で中途半端となり、今後の課題

として残ることとなった。案内看板前や、地下弾薬庫前は少しであるがすっきりした。

今回の見学会を企画しての収穫は、お母さんと参加した15歳と12歳の子ども参加、また、元気で知識欲旺盛で元気な女性の参加であった。

見学会の趣旨とした未活用の旧舞鶴要塞施設の現状と今後の課題を広く知っていただく事が、少しでも達成できたのではないだろうか。今後、今回の参加者を通して市内外の多くの人々に広く伝播することを期待している。以下、当日および翌日に寄せられた見学会に対するコメントを列記する。『山登りも、歴史の勉強も、盛りだくさんの時間をありがとうございました。色々とお話を聞かせてもらったからこそ、興味も出てきたように思います。』『楽しかったです。新しい出会いもあって良かったです。』『参加させていただいてありがとうございました。舞鶴の歴史的な遺産について、樹木について詳しい話を楽しく聞かせていただきながらの登山は、とても充実し興味深いものでした。今後も春など違った季節に、他の砲台なども企画していただければ嬉しいです。』



山頂の建部山堡壘砲台・地下弾薬庫前で集合写真



登山道中随時に永井さんの樹木解説



砲台跡に到着後、吉岡理事による解説

平成 11 年に破綻に瀕した日産自動車がフランスのルノーに支援を仰ぎ、同社から派遣され再建にあたったゴーン氏が 30 年に逮捕された件に関連して、その後日産がフランスに乗っ取られるのかと危惧する報道があった。これに関連してまず想起されるのは、明治初めに住友が別子銅山の経営にフランスの商会参加の誘いを受けた件である。

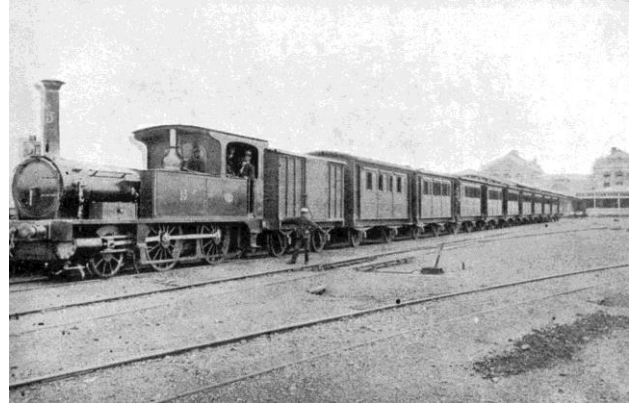
江戸時代から別子銅山を管理・経営する住友は、維新後フランス人技師ルイ・ラロックを雇い、銅山開発の近代化に係る画期的な目論見書（明治 8 年）を作成させたが、その後この技師はフランスの商会を銅山経営に参加させたいと提案した。一方、用意周到な政府は明治 6 年に本邦の鉱山経営は日本人に限るとの「日本坑法」を定めており、住友は政府に報告・確認のうえ提案を断り、ラロックをあっさり解雇した。仮にフランス側と共同経営をしていた場合、その後の住友の発展があったか否か疑わしい。



ラロック作成の「別子銅山目論見書」（住友グループ広報委員会）

もう一つの例は、本邦で初めて開設された新橋・横浜間の鉄道のことである。政府は、或る英国人投資家からの「日本が経営権をもつ条件で投資したい」との提案に乗りかけたが、英国で公債を募り両国間の利ザヤで稼ぐ人物と分かり危ういところで降りた。結局、

英国公使パークスの仲介で、日本が経営権をもち、融資は英国の銀行から、建設も英国に発注する方式で実施することとした。幸い英国は、植民地反乱の対応などに多忙で、日本をむしろ対等な貿易相手として育てる方に舵を切っていたという。



明治初期の列車（新橋駅）

1853 年にペリー艦隊が来航して倒幕運動が盛んになるが、背景には列強による日本植民地化の危機感があった。十数年にわたる倒幕運動は、幕府や各藩の間の必死の「外交」であり、志士らは騙したり騙されたりし、時に白刃をくぐり抜けての過酷な過程で、若さ不相応の「海千山千」になっていった。彼らが得た最大のものは用心深さと胆力ではなからうか。

その「維新の元勳」たちが生きていた明治末くらいまでは、少なくとも外交はなんとか大過なく対応できた。それでも、日清・日露の戦役を経て列強との不平等条約を解消できたのは維新後 40 年以上も経ってからであった。その後特に昭和に軍部中枢となった「秀才」たちが政治に容喙し戦争を主導し、歴史上初めて日本を外国の膝下に置いた事象は対照的である。また、昨今でも名だたる大企業が外国企業との M&A などで次々と苦杯を嘗めさせられているのは、いかがなものであろうか。

2008 年、息子が舞鶴高専に行って、まず知ったのは第三火薬廠のこと。新入生歓迎会の肝試しが高専周辺の廃墟で行われると息子に聞いてからです。

舞鶴高専の学生の間では、高専北側の砲熷谷の工場あとを「ロシア病院」、覆土式火薬庫を「二重倉庫」と呼んでいるということも知りました。

第三火薬廠は舞鶴市教育委員会がまとめた「舞鶴の近代化遺産」（2008 年）という冊子にも未掲載で、このこともあって、知らない人には知りようがないという側面があるほか、先述の「ロシア病院」という用語がネット社会の中で独り歩きしているというところもあり、きちんと理解されているとは言えない状況にありました。

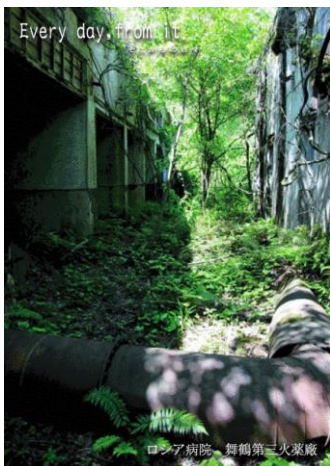
第三火薬廠については、2005年に関本長三郎さんが「住民の目線で記録した旧日本海軍第三火薬廠」というどちらかと言うとソフト面を中心にした書籍を自費出版されています。

私は、関本さんなどの第三火薬廠に地元で関わる人たちと現地を歩いたり、あるいは単独で第三火薬廠の敷地をくまなく歩いたりして、第三火薬廠のハード面、つまりどこに何が残っているについて調べてきました。

そして、2011年に写真家でコスプレイヤーでもある葦浦史穂さんとほかでもない第三火薬廠の見学会で出会いました。

葦浦さんからは、第三火薬廠の写真集を作ってコミケ（コミックマーケット、毎年夏冬に開催される日本最大の同人誌販売会）で販売したいと申し出がありました。

それを受けて、2012年5月に彼女を現地案内し撮影、同年8月に出版されたのが「Every day. from it そこからの日々 ロシア病院 舞鶴第三火薬廠」（写真）です。



写真集表紙

結果的に、コスプレイヤー目線とは言え、第三火薬廠のハードを扱った書籍は、いまのところ、これのみではないかと思います。この写真集の出版が良かったのか悪かったのか私にもよくわからないところがありますが、少なくとも「ロシア病院」とは第2次世界大戦中に舞鶴にあった海軍の火薬工場であるという事実を普及させたことは良かったと思っています。

今年になって、第三火薬廠に少し動きがありました。舞鶴高専の今村友里子助教ら複数の先生らが第三火薬廠に学術の目を向けられました。2019年3月16日に公開講座「眠れる近代化遺産 海軍第三火薬廠～その過去・現在・未来を考える～」が開催されました。いよいよ、地元、舞鶴高専が第三火薬廠に目を向けたということです。

第三火薬廠については、地元でしっかりと見守っていらっしゃる関本さんたち、コスプレイヤー目線（「艦これ」の舞鶴としては大事な目線だと思います）の葦浦さん、そして高専の今村さんたち、これに外野の僕たちが加わってなにか地域が盛り上がりいけるいい方向に持っていければなと考えているところです。

4. 舞鶴市立赤れんが博物館 ～開館から25年～

館長（会員NO.3 理事 石原 雅章）

赤れんが博物館は平成5年11月に開館してから25年となりました。入館者数も既に150万人を超え、毎年各所かられんがをご寄贈等いただいております。収集するれんがも世界42か国、2千点に達したところです。

昨年度には、台湾の方がわざわざ博物館までれんがをご持参いただくほか、本年9月にオランダ・アムステルダムから来られた方はヘットシップというれんが建造物の冊子をご寄贈いただくなど、海外からも関心を寄せていただいております。

また、近年市内小学生のふるさと学習による見学も定着するなど教育普及活動も充実してきました。



市内小学生ふるさと学習

赤れんが博物館は、本市で初めての赤れんが倉庫の転活用として、多くも皆さんにご支援いただきながら歩んできた博物館であり、今後も少しずつではありますが博物館の充実を着実に図っていきたいと考えています。

今年度新たに常設展示したれんが



浅草凌雲閣のれんが



イギリス・ポーツマス市 サウスシー城のれんが

5. その他 編集後記

事務局

編集後記

「これまで or 過去に経験した事の無い・・・」のなんと多い事か!

いよいよ今年もあと2か月。年末に清水寺管主が今年を一字で表す漢字を揮毫されるが、何になるのか?

今年も地球温暖化に起因すると言われる記録的豪雨・巨大台風など多発し大災害が発生しているので、それを表す一字になるであろうが、小生は『経験の無い』を推す。

以下、今も解決・解明できずに、気になって仕方のない事柄を思いつくままに列記して見る。

■学校法人森友学園への破格安価な国有地売却 ■日韓関係悪化は徴用工訴訟問題に起因し対韓輸出規制強化に対してGSOMIA破棄で対抗 ■愛知トリエンナーレの「表現の不自由展・その後」開館三日後に暴力的・政治的クレームで展示中止、閉会数日前に再会、文化庁による補助金不交付決定、不服申し出 ■関西電力高浜原子力発電所に関わる長年にわたる多額な金品受領問題、今後、他の原子力発電所にも波及必至 ■京都アニメーション爆発的放火炎上の原因究明は ■世界的気候変動問題に無関心・業界に忖度している日本政府 ■舞鶴市広報まいづる5月号「ドクターTのひとりごと」の一節（・・・議会で他の議員団と合意できない少数議員団の公約は、全く実現が不可能である。・・・公約を実現できる候補者を選んでください。・・・）市長のコメントとしては何か変ですね? (h. b)

会 員 資 格： 会費納入者（特別会員は除く）。入会金1,000円、年会費（個人2,000円、法人10,000円）
なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご寄附も受け付けています。
会費・寄付金等 振込先： ゆうちょ銀行 口座番号（01010-6-21476） 加入者名： 赤煉瓦倶楽部舞鶴